

四国横断自動車道 佐賀^{さが}～四万十^{しまんと}
第3回 説明資料

平成27年 3月18日

目次

1. 前回の審議内容	・・・	2
2. 第2回意見聴取の結果	・・・	4
3. 対応方針(素案)の検討	・・・	17
4. 自治体への意見照会結果	・・・	26
5. 対応方針(案)のまとめ	・・・	30

1. 前回の審議内容

平成26年度 第1回 四国地方小委員会の概要

■実施日

平成26年6月5日(木)

■主な議題

- ①第1回意見聴取の結果
- ②対応方針(案)の検討
- ③第2回意見聴取方法(案)

平成26年度 第1回 四国地方小委員会での主な指摘事項と対応状況

指摘事項	対応状況
<p>意見聴取にあたり、各ルート帯案の考え方や内容について、地域住民の方へ丁寧で分かりやすい説明を行ってほしい。</p>	<p>地域住民の方などを対象として、各ルート帯案の計画内容やアンケートの内容についての説明会(オープンハウス)を四万十市及び黒潮町で開催。 説明会(オープンハウス)の開催にあたっては、案内チラシをアンケート票配布封筒に同封し、地域住民の方などへ周知を図った。 ⇒ 説明会(オープンハウス)の詳細は、7ページに掲載</p>
<p>意見聴取の回収率が低い地区については、回収率が向上するような工夫を行ってほしい。</p>	<p>アンケート調査の実施について、新聞広告、ポスター掲示に加え四万十市及び黒潮町の広報誌に掲載し、周知を図った。 さらに、市役所及び役場職員による地域住民の方への声掛けを行った。 これらの効果もあり、回収率は微増した。 ⇒ 地域住民等アンケート 前回回収率 21.1% → 今回回収率 21.4%</p>

2. 第2回意見聴取の結果

2. 第2回意見聴取の結果(意見聴取の実施概要)

○意見聴取は、説明会(オープンハウス)を開催し、アンケート調査及びヒアリング調査を以下のとおり実施した。

	対象者	実施期間	回収方法	実施概要	回答状況
説明会	地域住民	平成26年10月2日(木) ～10月5日(日)	—	四万十市及び黒潮町の住民の方などを対象に説明会(オープンハウス)を開催 ・四万十市:四万十市本庁 1階ロビー(のべ4日間) ・黒潮町:黒潮町本庁敷地内 保健福祉センター1階(のべ4日間)	来訪者240人 (うち、189人がアンケートに回答)
アンケート調査	地域住民	平成26年9月24日(水) ～10月22日(水)	郵送回収	四万十市(旧中村市)の全世帯・全事業所(15,823部)、黒潮町の全世帯・全事業所(5,203部)に配布	回答数:4,498票 (回収率:21.4%)
	企業等	平成26年9月24日(水) ～10月22日(水)	郵送回収		
	道路利用者	平成26年9月24日(水) ～10月22日(水)	郵送回収	四万十市本庁、黒潮町本庁、道の駅なぶら土佐佐賀、道の駅ビオスおおがた、物産館サンリバー四万十、トンボ王国あきついお、道の駅すくも、道の駅大月、道の駅めじかの里土佐清水で配布	回答数:109票
	道路利用者 (WEB)	平成26年9月24日(水) ～10月22日(水)	WEB上で回収	四国地方整備局、中村河川国道事務所のHP上にアンケートを掲載	回答数:38票
ヒアリング調査	自治体及び 団体代表者	平成26年9月24日(水) ～10月23日(木)	インタビュー形式での ヒアリングを実施	【自治体】 高知県、四万十市、黒潮町 及び宿毛市、土佐清水市、大月町、三原村 【各団体等】 トラック協会、商工会議所、商工会、消防署、警察、バス事業者、農協、漁協、観光協会、医療関係、 県・市町から地域代表として推薦いただいた地域の活動団体 (うち、女性団体は2団体)	【自治体】 7自治体 【各団体等】 34団体
	道路利用者	平成26年10月18日(土)		【道の駅、観光施設の利用者】 道の駅なぶら土佐佐賀、道の駅ビオスおおがた、道の駅すくも、道の駅大月、道の駅めじかの里土佐清水、カツオふれあいセンター黒潮一番館、物産館サンリバー四万十	229人

2. 第2回意見聴取の結果(説明会(オープンハウス)の開催状況)

- アンケート調査の実施にあたり、地域住民の方などを対象として、佐賀～四万十間の各ルート帯案の計画内容やアンケートの内容についての説明会(オープンハウス)を四万十市及び黒潮町で開催した。
- 説明会(オープンハウス)の開催にあたっては、案内チラシをアンケート票配布封筒に同封し、地域住民の方などへ周知を図った。

▼説明会(オープンハウス)の開催概要

地域	開催場所	開催期間	開催時間	来訪者数	
四万十市	四万十市本庁 1階ロビー	10月2日(木)～10月5日(日) (のべ4日間)	平日 9:00～17:00 休日 14:00～17:00	184人	合計 240人
黒潮町	黒潮町本庁敷地内 保健福祉センター			56人	

▼説明会(オープンハウス)の周知

- 案内チラシを四万十市(旧中村市)及び黒潮町の全世帯・全事業所に配布

▼説明会(オープンハウス)の開催状況

- 四万十市本庁 1階ロビー
平成26年10月2日(木)の状況

- 黒潮町本庁敷地内 保健福祉センター
平成26年10月4日(土)の状況

四万十市～黒潮町間の各ルート帯案の計画内容やアンケートの内容についてご説明します!

対象地域

説明会(オープンハウス)の実施について

実施内容 第1回目に頂いたアンケート結果やルート帯(案)及びインタビューを考慮し、重要視する点についてご説明いたします。

開催日時 平日 9:00～17:00 土・日 14:00～17:00

アクセスマップ

黒潮町本庁敷地内 保健福祉センター1階

四万十市本庁 1階ロビー

ご都合に合わせて、どなたでも参加いただけます。お気軽にお越しください。

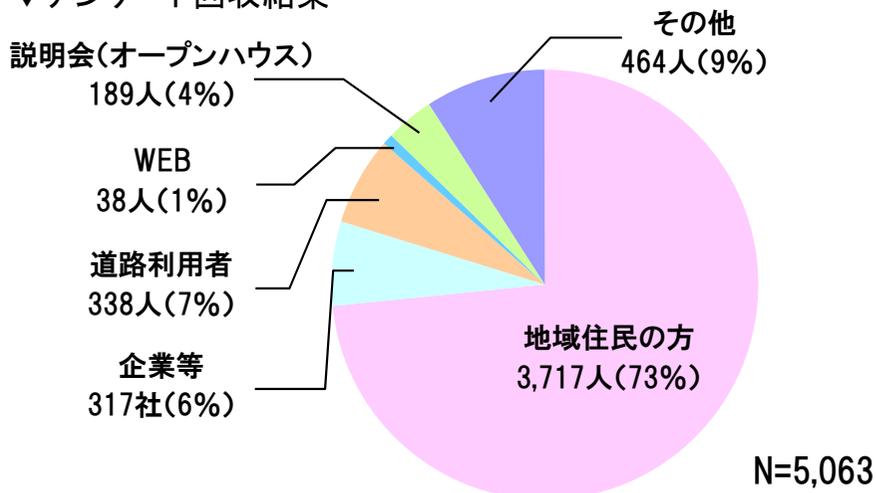
【お問い合わせ先】 国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所 調査課 調査係 ☎0880-34-7307



2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果①)

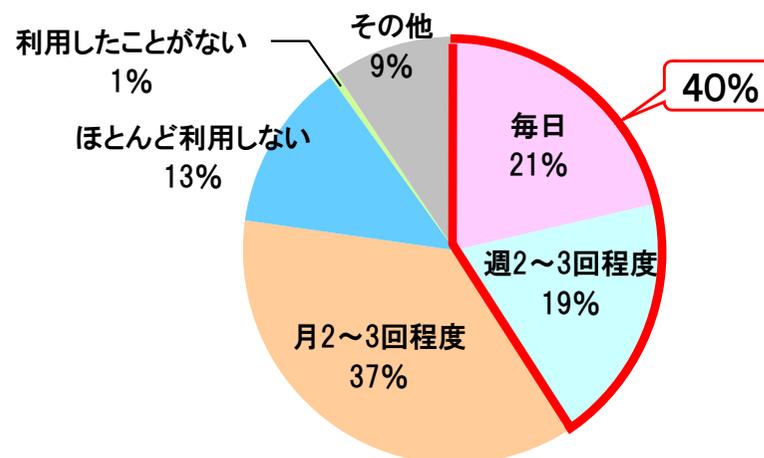
- 地域住民 3,717人、企業等 317社、道路利用者 338人、WEB 38人、説明会(オープンハウス)参加者 189人から回答をいただいた。
- 回答者のほとんどが、対象地域である黒潮町、四万十市に居住(企業等は所在地)。
- 回答者の約4割が、国道56号 佐賀～四万十間を「週2～3回程度以上利用」と回答。
- 利用目的は、「観光・レジャー」が約2割、「家事・買い物」が約2割、「仕事と通勤」が約3割と多様な状況。

▼アンケート回収結果



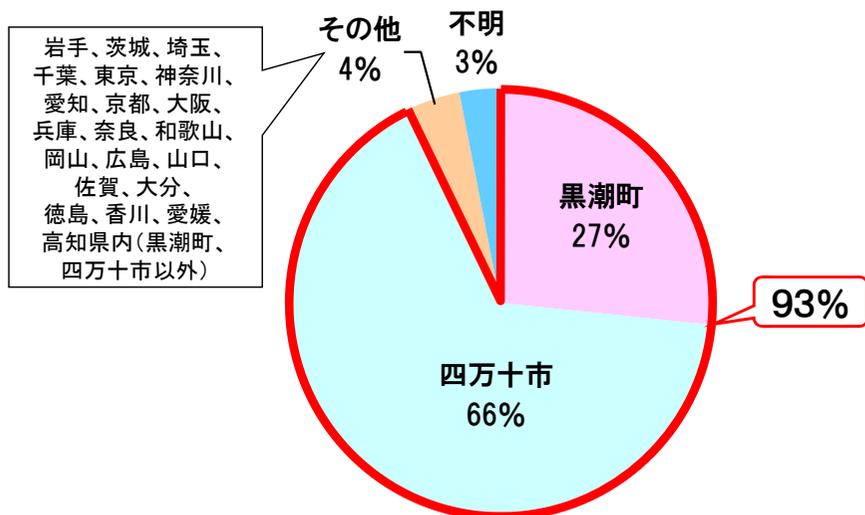
※その他は、地域住民の方が事業所か不明な人数

▼国道56号 佐賀～四万十間の利用頻度

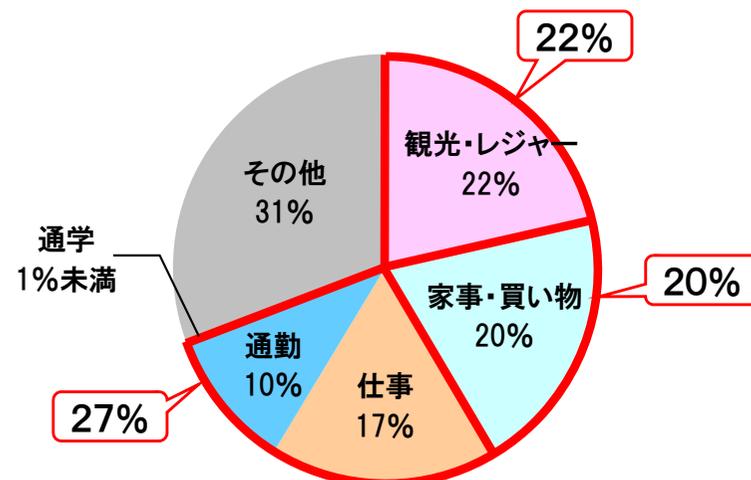


※その他には、選択項目以外の回答の方、未回答及び複数回答の方を含む

▼回答者住所



▼利用目的



2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果②)

(1) 望ましいルート帯案を考える際に、重要と思う項目について

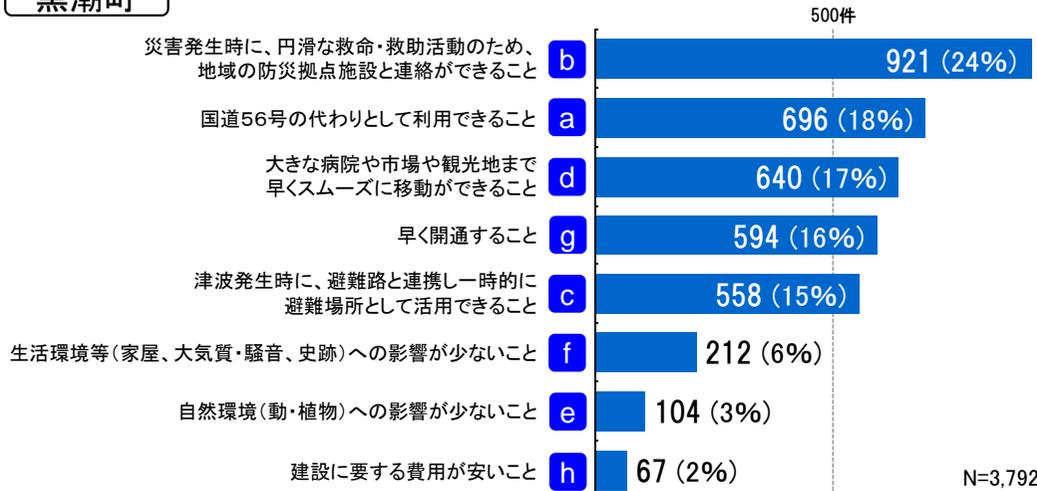
○重要と思う項目では、「**b** 災害発生時に、円滑な救命・救助活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」、「**a** 国道56号の代わりとして利用できること」が最も重要とされている。

問1-1: あなたの住む地域(黒潮町、四万十市)にとって、望ましいルート帯案を考える際に、何が重要と思いますか? ※項目 **a** ~ **h** の中から3つ選ぶ

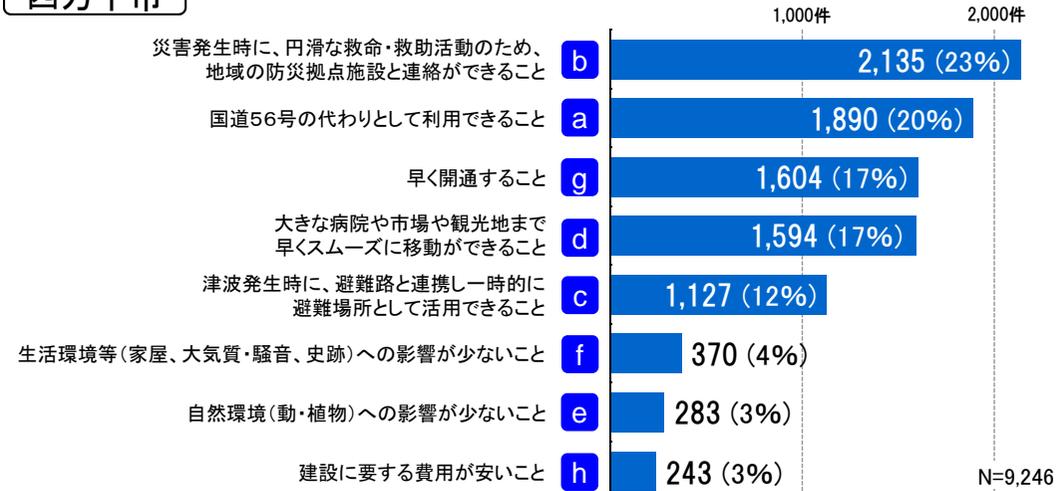
全体



黒潮町



四万十市

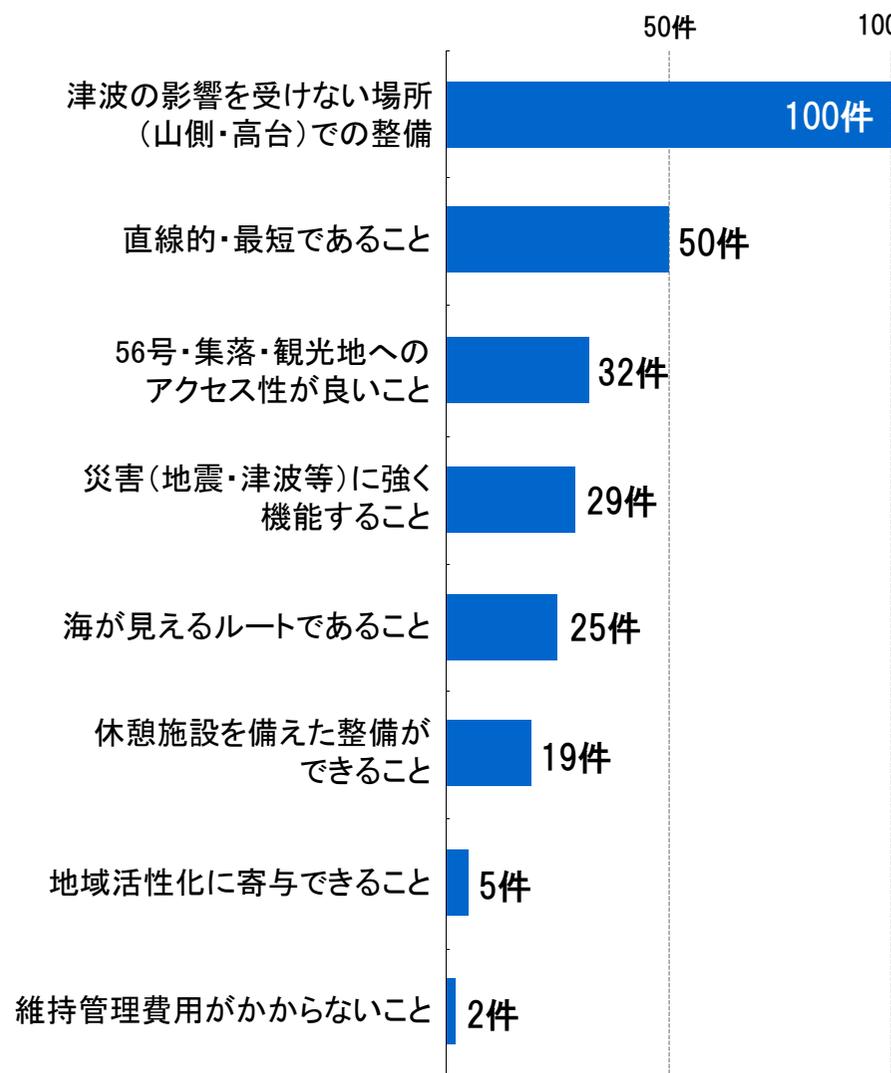


2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果③)

(2) 望ましいルート帯案を考える際に、重要と思う項目について(項目 a ~ h 以外の自由意見)

○項目 a ~ h 以外で重要と思う項目では、「津波の影響を受けない場所(山側・高台)での整備」が重要との意見が最も多く寄せられた。

問1-2: 項目 a ~ h 以外で、重要と思うものがあれば、ご自由にお書きください。



<主な意見>

項目	自由意見
津波の影響を受けない場所(山側・高台)での整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ 南海トラフを考えた場合、津波等で道路が浸からない高い所を通る道路の建設を。(60代 男性) ■ できるだけ、山側を抜けるルートをお願いします。そうしないと津波災害時、幡多郡は孤立してしまいます。(40代 男性) ■ 沿岸部を通るルートになると思うが、津波等被害を受けないルートを検討してもらいたい。ただ、生活圏からの距離が遠くならないようにもして欲しい。(30代 男性) ■ 津波の心配なくまた、災害時また、観光地にスムーズに移動できる事は高知の発展につながるのではないかと。(70代 女性)
直線的・最短であること	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高齢者の多い地域なので、なるべくカーブの少なく直線で道幅の広い道路。(50代 男性) ■ 出来るだけ直線的に早くスムーズに移動が出来る事。(20代 女性) ■ 最短で結ぶルート。時間短縮による目的地の選定における多様化に伴う経済効果が期待できる為。(60代 男性)
56号・集落・観光地へのアクセスが良いこと	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国道56号と連絡が取りやすいルートとし、災害発生時でライフラインと併用した移動が利便であること。(50代 男性) ■ 地域住民や企業のためになるルートが必要と考えられます。(40代 男性)
災害(地震・津波等)に強く機能すること	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地震で壊れない、しっかりとした道路を作ってほしい。災害時に避難ルートとして利用できる道路。(30代 男性) ■ 雨災害、地震災害に強い道路が良い。(不明)
海が見えるルートであること	<ul style="list-style-type: none"> ■ 黒潮町を通る時に海が見えないのはいかがなものか。海沿いに作れば観光にも一役買えるのでは。(20代 男性) ■ 高速道から少しは、太平洋が望めるように。(60代 男性)
休憩施設を備えた整備ができること	<ul style="list-style-type: none"> ■ 太平洋が見渡せるSAを数箇所作れば観光客増にもなる。(60代 男性) ■ 一般道と高速道路利用者が交流できるサービスエリアの設置。(70代 男性)
地域活性化に寄与できること	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域経済に寄与する視点の思慮もあってほしい。間接的でなく直接的な効果。(70代 男性)
維持管理費用がかからないこと	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今後、長きにわたり、保守など経費面において、後生の負担も考慮した経路。(60代 男性)

※その他 628件 「案〇を支持等の直接的な意見」、「否定的な意見」などに関する意見

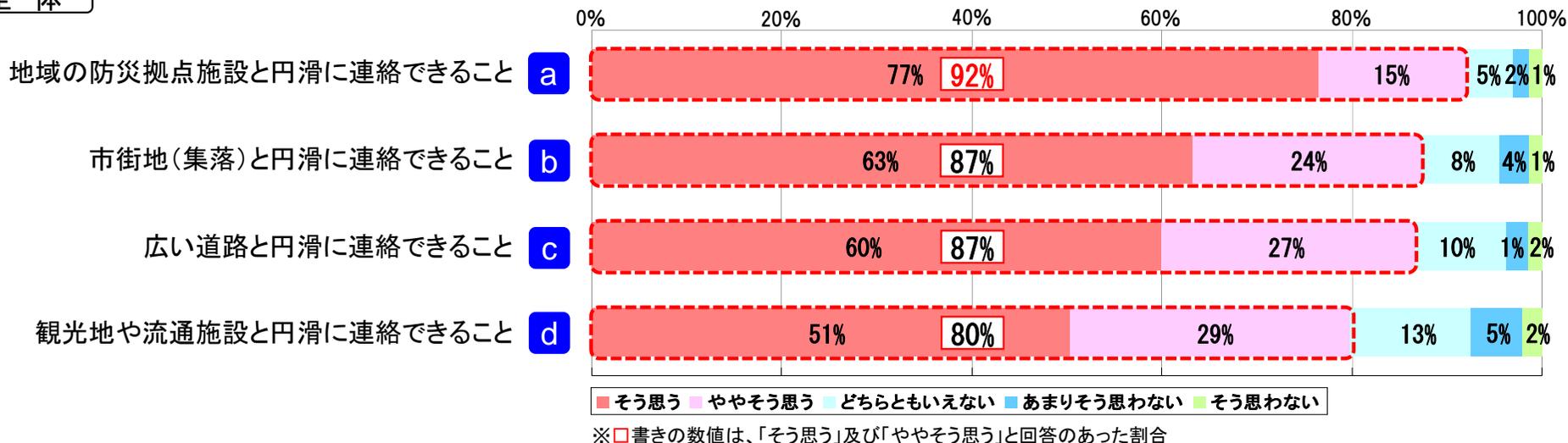
2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果④)

(3) インターチェンジを作るところを考える際に、重要と思う項目について

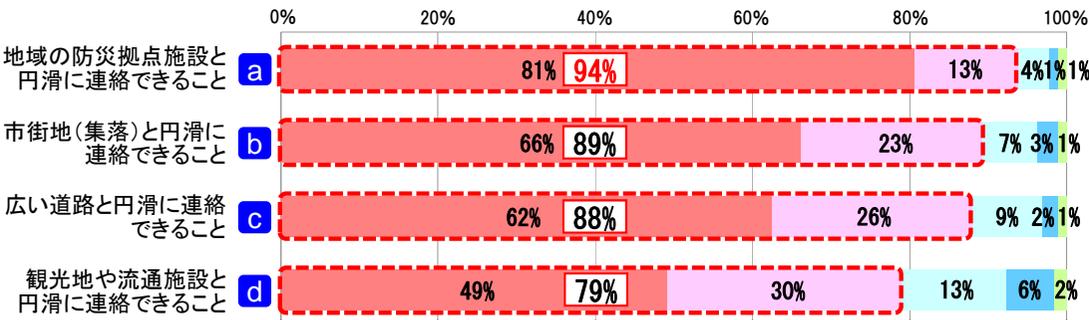
- 回答者の8割以上の方が、すべての項目を重要と思われている。
- 特に、「**a** 地域の防災拠点施設と円滑に連絡できること」が最も重要と思われている。

問2-1: インターチェンジを作るところを考える際に、何が重要と思いますか？ ※項目 **a** ~ **d** のそれぞれについて5段階で評価

全体



黒潮町



四万十市

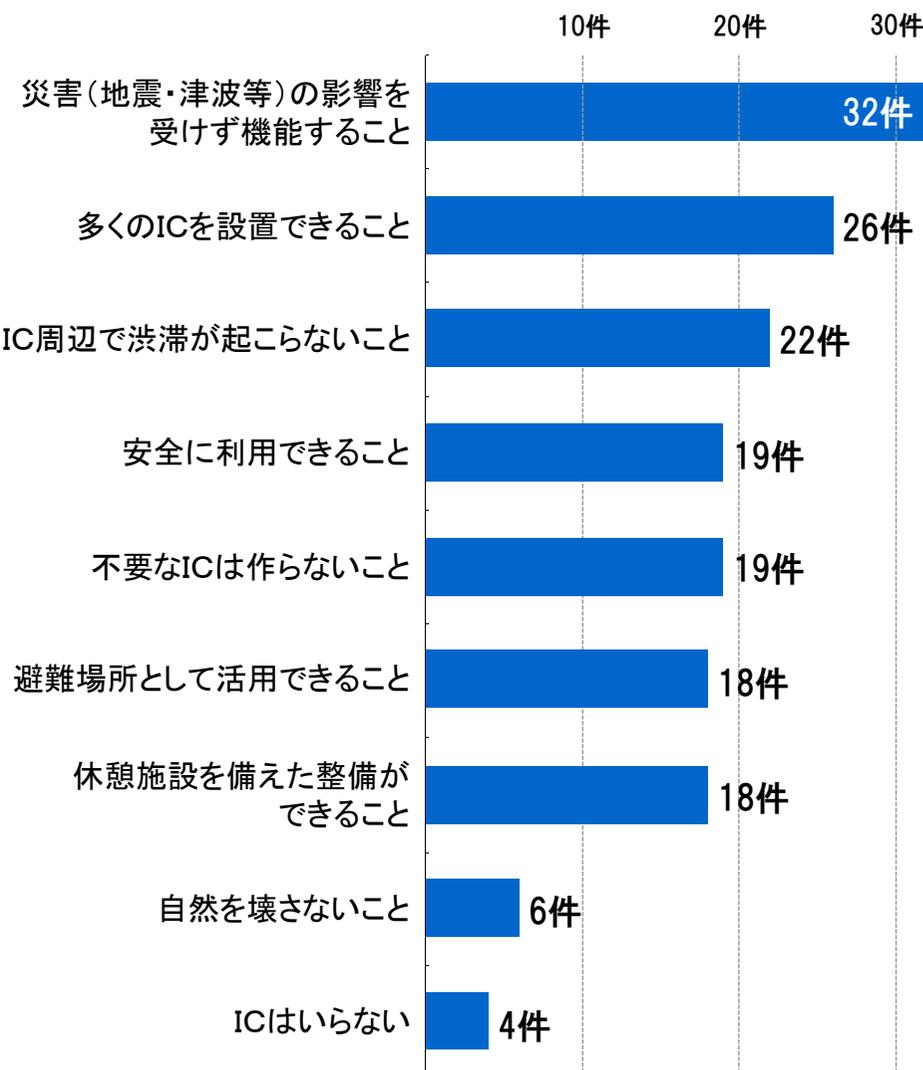


2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果⑤)

(4) インターチェンジ(IC)を作るところを考える際に、重要と思う項目について(項目 a ~ d 以外の自由意見)

○項目 a ~ d 以外で重要と思う項目は、「災害(地震・津波等)の影響を受けず機能すること」が重要との意見が最も多く寄せられた。

問2-2: 項目 a ~ d 以外で、重要と思うものがあれば、ご自由にお書きください。



<主な意見>

項目	自由意見
災害(地震・津波等)の影響を受けず機能すること	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在の道路は海岸沿いにある。<u>津波の被害を受けない地に作るべき</u>。56号が津波浸水しても代替えとなる。(70代 女性) ■ <u>災害時に安全な場所</u>であれば良いと思う。中心地より離れたとしてもたいした距離ではないのだから。(40代 女性) ■ <u>災害時また事故等の緊急時に対応できるインターを整備</u>していただくことが最重要と考えます。(60代 男性) ■ <u>津波が来たときでも使用</u>できること。(40代 女性)
多くのICを設置できること	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特に海岸沿いを控えた地域ですので、<u>少しでも多くのインター設置希望</u>です。(50代 男性) ■ <u>インターチェンジの数を多くする事で観光客が立ち寄りきっかけ</u>を作れば、少しでも経済が良くなると思う。(50代 男性)
IC周辺で渋滞が起らないこと	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>出入りするときに渋滞が発生しにくい</u>こと。(50代 男性) ■ <u>インターチェンジ近辺で車が混み合わずスムーズに流れる</u>ことを期待します。(50代 女性)
安全に利用できること	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>安全に出入りしやすい</u>道のインターチェンジがあれば良い。(50代 女性) ■ <u>事故の少ない</u>ように設置してほしい。(40代 男性)
不要なICは作らないこと	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>区間は短いのでインターは大方1ヶ所</u>あればよいのでは。(60代 男性) ■ <u>建設費が高いため、主要な箇所のみ</u>で良い。(40代 男性)
避難場所として活用できること	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災対策として <u>災害時に多くの人が避難できる様に多く設置</u>。(30代 女性) ■ 南海トラフ地震があった際、<u>避難する事を考えてICを作る事</u>が重要。(40代 女性)
休憩施設を備えた整備ができること	<ul style="list-style-type: none"> ■ 太平洋が見える高台に <u>サービスエリア(観光、防災)をかねたインターチェンジ</u>を作って欲しい。(50代 男性) ■ <u>道の駅やSAと一緒にいる方が便利</u>だと思います(スマートIC)。(20代 男性)
自然を壊さないこと	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>生態系や自然環境に与える影響が少なく済む</u>ところ。(40代 男性)
ICはいらない	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>インターチェンジは必要ない</u>。四万十ICと佐賀ICがあれば十分。(50代 男性)

※その他 426件 「早期整備」、「具体的なIC位置や形式」などに関する意見

2. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果⑥)

(5) 国道56号 佐賀～四万十間の道路整備等について

- 南海トラフ地震への備えとして、また、地域活性化のために、「新たな道路の早期開通」を求める意見が非常に多く寄せられた。
○また、「早くスムーズな移動ができる道路の整備」、「津波の影響を受けない場所(山側・高台)での道路の整備」を求める意見も多く寄せられた。

問3: 国道56号 佐賀～四万十間の道路整備等について、あなた自身が日頃から思う事など、ご意見やご要望をご自由にお書きください。

<主な意見>

項目	自由意見
新たな道路の早期開通 【696件】	<ul style="list-style-type: none"> ■南海トラフ地震は近い将来必ず起る。命の道路として早期完成を強く願います。(50代 男性) ■陸の孤島返上の為にも、高速道路の早期開通を希望。それにより企業・観光客誘致が可能になる。(70代 男性) ■高速道路が少しずつ延伸、すごく嬉しい。早く四万十市まで整備して欲しい。(50代 男性)
早くスムーズな移動ができる道路の整備 【69件】	<ul style="list-style-type: none"> ■子供が病気の時、幡多けんみん病院へ行きます。少しでも早く病院へ行きたい。(30代 女性) ■高齢者が多いので、高齢者が安全かつ便利に使えることが願いです。(40代 女性)
津波の影響を受けない場所(山側・高台)での道路の整備 【66件】	<ul style="list-style-type: none"> ■津波の被害を受けにくい場所で安全かつ便利なところへ建設をお願いします。(50代 女性) ■災害時にも(水害等)円滑な車の通行ができる所に道路を作って欲しい。(60代 男性)
災害(地震・津波等)に強く機能する道路の整備 【56件】	<ul style="list-style-type: none"> ■災害で、孤立する事がないように、災害に耐えうる道路の整備をお願いします。(40代 男性) ■今後予想される大地震が起きても心配のないよう丈夫なものにしてほしい。(30代 女性)
国道56号の代わりとなる道路の整備 【34件】	<ul style="list-style-type: none"> ■災害時、地域分断しないよう国道56号の代わりとなる道路を望みます。(40代 男性) ■防災面、救急搬送、物流、観光など多方面に活用できる道路は二本は必要。(40代 男性)
否定的意見 【21件】	<ul style="list-style-type: none"> ■人口も少ないのに自動車道はあまり必要と考えていない。(60代 女性) ■道路をつくる事よりも、自然を壊さない事の方が大切。道路は作って欲しくない。(30代 女性)
避難場所として活用できる道路の整備 【15件】	<ul style="list-style-type: none"> ■津波などの一時避難場所として活用できることを併せもった道路が必要。(70代 男性) ■黒潮町は特に避難場所として活用できるようにしてあげてほしい。(50代 女性)
海が見えるルートでの道路の整備 【14件】	<ul style="list-style-type: none"> ■雄大な太平洋を望むこの道路では高知県の宝だと思います。この風景を望める高速道路を目指していただきたい。(50代 男性) ■海の見える観光地としての道を造って。(70代 女性)
自然や景観に配慮した道路の整備 【13件】	<ul style="list-style-type: none"> ■自然を観光の目玉とする以上、自然に優しいまたは配慮したうえで道路建設をお願いしたい。(50代 男性) ■自然が豊かな土地なので、できるだけ環境は守った道路整備を。(30代 男性)
地域活性化を図ることのできる道路の整備 【12件】	<ul style="list-style-type: none"> ■四万十市観光地としてアピールするには、交通利便が良い方が良い。(70代 不明) ■四万十市の産業振興では、物流は大きなファクターである。(50代 男性)
地域の衰退を懸念する意見 【12件】	<ul style="list-style-type: none"> ■道が通る事はいいですが、その間の町や村が寂れていく事が心配。(40代 男性)
休憩施設を備えた道路の整備 【9件】	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の産業・観光・情報の発信拠点として、地域住民も利用できる複合型SAの設置を希望します。(30代 男性)

2. 第2回意見聴取の結果(ヒアリング結果①)

(1)望ましいルート帯案を考える際に、重要と思う項目について

○「**c**津波発生時に、避難路と連携し一時的に避難場所として活用できること」、「**d**大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動ができること」、「海が見えるルートであること」が重要との意見が最も多く寄せられた。

<主な意見>

項目	意見
a 国道56号の代わりとして利用できること 【10団体】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国道56号は有事の際機能しないので、56号の代替道路が必要である。(中村商工会議所、黒潮商工会、三原村商工会) ■ 国道56号は、事故も多い。大事故だと数時間通行止めとなる。代替路があれば大きな問題とならない。(幡多中央消防署)
b 災害発生時に、円滑な救命・救急活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること 【2団体】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新庁舎付近を総合防災拠点に位置付け整備を進めており、連結できることが望ましい。(黒潮町) ■ 四万十市は、庁舎・医療施設・給油所等の多くが津波浸水区域外となっている。災害時には、医療支援や支援物資の集配など、幡多圏域における中心的な役割を担わなければならない。よって、広域支援が円滑に行えるようなルートが望ましい。(四万十市)
c 津波発生時に、避難路と連携し一時的に避難場所として活用できること 【14団体】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 黒潮町の被害軽減を図るためには、周辺住民が避難所として有効活用できるルートが望ましい。(四万十市) ■ 津波を考えると道路が一番の避難場所。人家に近いルートで避難場所となる道路が望ましい。(佐賀北部活性化推進協議会) ■ 津波を想定し、出来るだけ住家に近く住民がすぐに逃げ込める(アクセスに時間がかからない)ルートが望ましい。(黒潮商工会)
d 大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動ができること 【13団体】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 患者負担軽減のため、線形のよい道路は必要である。(幡多西部消防組合) ■ 荷傷みに関しては、箱詰め仕方、ドライアイスなど、様々な工夫をしているが、時間短縮は重要である。(JA高知はた) ■ 高速開通による時間短縮により、首都圏への入札参加も期待できる。(JF高知清水統括支所)
e 早く開通すること(早期整備) 【11団体】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 津波が来たら迂回路が無く、物資の輸送ができず孤立する。そのため、とにかく早く整備してほしい。(黒潮町連合婦人会) ■ 高知から高速道路が延伸してきて、高速道路の利便性は知っている。とにかく早く整備してほしい。(中村女性団体連絡協議会)
海が見えるルートであること 【13団体】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 四万十川をはじめとする自然を生かした観光振興に特に力を注いでおり、景観も観光素材として重視している。よって、太平洋を望むことが出来る様なルートにして欲しい。(四万十市) ■ 観光スポットとなる道路となってほしい。太平洋が魅力なので、太平洋を見てもらえると観光客に喜ばれる。景観を活かして海が見える道路がよい。ビューポイントもほしい。(高知県観光コンベンション協会) ■ 景色も貴重な観光資源なので、景色が良い(海が見える)道路にして欲しい。(黒潮商工会)
56号・集落・観光地へのアクセス性が良いこと 【8団体】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出来るだけ国道56号にアクセス可能なルートがよい。(黒潮町) ■ 各ICで乗降させるため、集落からあまり離れたルートだと乗客にとっては不便であり、時間も要する。(高知西南交通)
災害(地震・津波等)に強く機能すること 【8団体】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 津波の際、避難しやすく、救急搬送道路・物資輸送道路としても機能する道路が望ましい。(佐賀北部活性化推進協議会) ■ 大雨の時、列車が止まるとバスに流れてくる。代替路としての機能が必要であり、災害に強い道路としてほしい。(高知西南交通)
地域活性化を図ることができること【7団体】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 四国横断自動車道の延伸は、商工会の会員にとっては商売へのやる気にも繋がっており、期待している。(黒潮商工会)
津波の影響を受けない場所(山側・高台)での整備 【4団体】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 津波浸水エリアを避けることは必須である。(幡多中央消防署) ■ 災害を考えると、海から離れた方がよいのではないか。(高知県トラック協会)

2. 第2回意見聴取の結果(ヒアリング結果②)

(2) インターチェンジ(IC)を作るところを考える際に、重要と思う項目について

○「**b**市街地(集落)と連絡できること」が重要との意見が最も多く寄せられた。

<主な意見>

項目	意見
a 防災拠点施設と連絡できること 【1団体】	■ICは 防災拠点と接続 することも重要。(黒潮町)
b 市街地(集落)と連絡できること 【9団体】	■中心市街地活性化の観点からは、 中心市街地に人が流れ込む様な箇所にICを設置 して欲しい。(四万十市) ■ 人口が多いところとのアクセス はほしい。(幡多中央消防署)
c 広い道路と連絡できること 【2団体】	■ 国道56号からのアクセスが容易な位置 がよい。(四万十市)
d 観光地や流通施設と連絡できること 【4団体】	■観光は、幡多全域で盛り上げていく必要があり、 高速道路が通らない町村との広域連携にも資するICが望ましい 。(四万十市) ■幡多が一体となって、 観光ルートの確立が出来る様 、配慮して欲しい。(三原村)
災害(地震・津波等)に強く機能すること 【1団体】	■ インターチェンジも津波に浸水したら、本線は浸からなくても意味がない 。(JF高知佐賀統括支所)
多くのICを設置できること 【4団体】	■ 乗り降りのポイントは多い方がいい 。観光客の選択肢が多い方がいいので。(高知観光コンベンション協会)

(3) その他の意見について

○「休憩施設の整備」を求める意見が多く寄せられた。

<主な意見>

項目	意見
休憩施設の整備について 【21団体】	■幡多地域の観光振興を図るため、 物産販売や観光案内等の情報発信基地ともなるSA が望ましい。場所については、四万十川が見えるなど 風光明媚な場所 に欲しい。(四万十市) ■ 本線直結型のSA・PAが必要 である。場所は 海が見える場所 が望ましい。更に、隣地が開発可能な場所が望ましい。(黒潮町) ■ 道路に併走した、SAが欲しい 。一般道からも乗り降りができ、情報発信の場・地場産品販売の場となるようにして欲しい。(黒潮町商工会) ■大規模災害時に、緊急消防援助隊として駆けつける、他府県からの 応援隊の拠点として活用できるようSA・PAの整備 が望まれる。(幡多中央消防署) ■ PAでいいので欲しい 。緊急時には、 防災拠点にもなる様、防災機能を持ったSA・PA にして欲しい。(佐賀北部活性化推進協議会) ■土佐PA以西に休憩所がないので、 休憩所はほしい 。(中村警察署)
緊急時の出入り口について 【3団体】	■ICを多く作ることは困難でも、 災害時に緊急車両だけアクセス できるものを整備してほしい。(幡多中央消防署)

2. 第2回意見聴取の結果(地域の課題(南海トラフ地震)との整合)

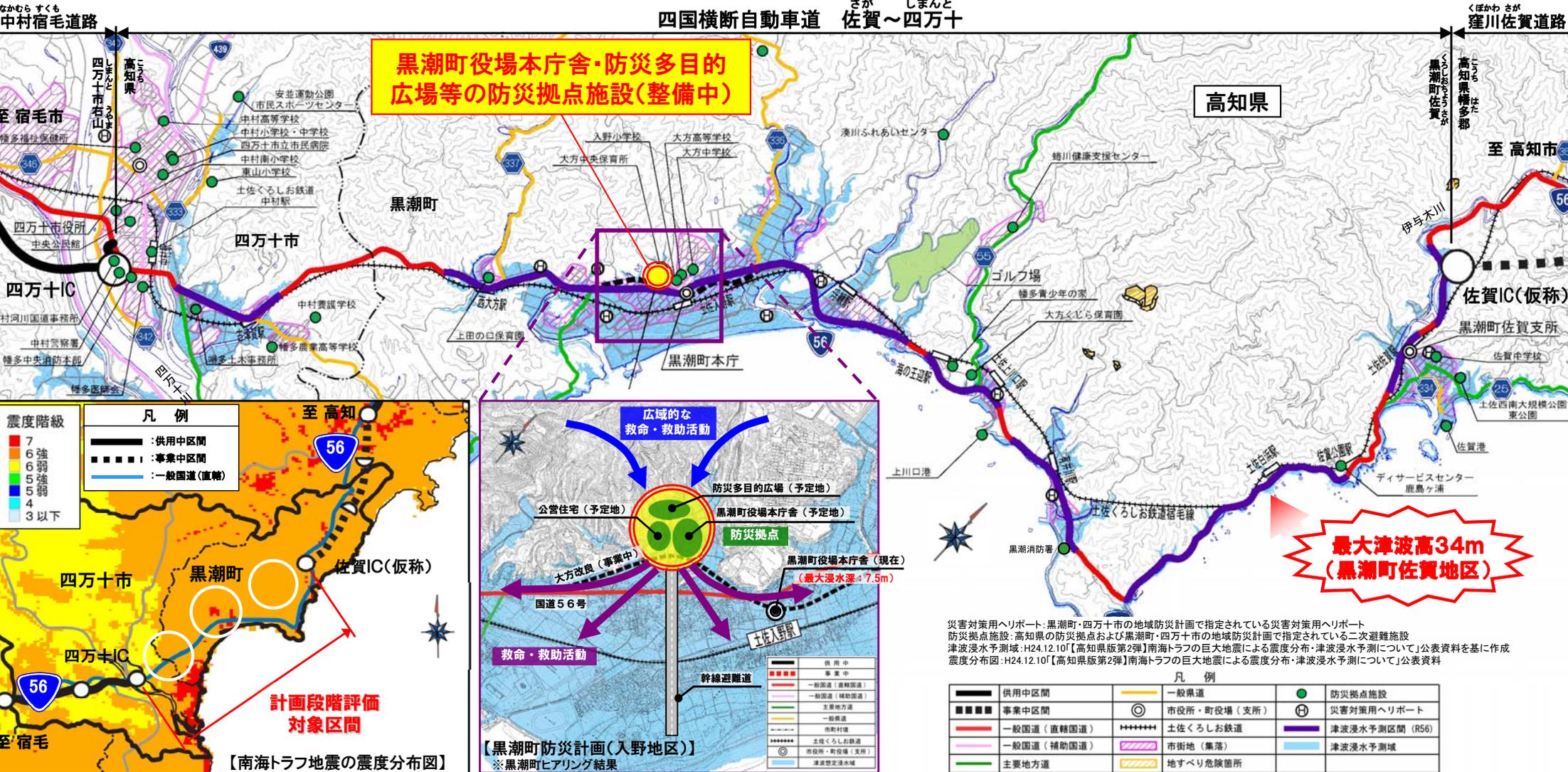
【地域の課題(南海トラフ地震)】

- 黒潮町では、全国で最も高い津波高34mが予測され、国道56号の佐賀～四万十間では、約7割(最大浸水深約18m)が浸水すると予測されている。
- 黒潮町では、南海トラフ地震の被害軽減に向け、防災拠点施設の high 整備などの防災まちづくりの整備が進められている。

【意見聴取の結果】

○望ましいルート帯案について

⇒ 地域住民等へのアンケートでは、「国道56号の代わりとして利用できること」、「災害発生時に、円滑な救命・救助活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」、「津波の影響を受けない場所(山側・高台)での整備」が重要との意見が最も多く寄せられた。
 また、団体等へのヒアリングでは、「津波発生時に、避難路と連携し一時的に避難場所として活用できること」が重要との意見が最も多く寄せられた。



災害対策用ヘリポート:黒潮町・四万十市の地域防災計画で指定されている災害対策用ヘリポート
 防災拠点施設:高知県の防災拠点および黒潮町・四万十市の地域防災計画で指定されている二次避難施設
 津波浸水予測域:H24.12.10【高知県版第2弾】南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について(公表資料を基に作成
 震度分布図:H24.12.10【高知県版第2弾】南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について(公表資料

3. 対応方針(素案)の検討

3. 対応方針(素案)の検討(政策目標と複数のルート帯案)

- 当該地域や道路の現状・課題を踏まえ、第1回意見聴取で確認のとれた『政策目標』を、達成するための役割を有する道路整備の対応方針(案)(複数のルート帯案)を設定
- 対応方針(案)(ルート帯案)の検討にあたっては、南海トラフ地震への対応、速達性・走行性、自然・生活環境の保全と調和、経済性等を考慮

【政策目標】

①南海トラフ地震に備えた信頼性の高いネットワークの確保

- ・代替路の確保
- ・防災拠点施設や避難路との連携

②救急医療機関への速達性の向上・安静搬送の実現

③速達性・走行性の向上により産業振興を支援

④地域間の交流促進により広域的な観光振興を支援

【ルート帯案検討にあたって考慮すべきポイント】

○ルート帯案の検討にあたっては、南海トラフ地震への対応、速達性・走行性、自然・生活環境の保全と調和、経済性等を考慮し検討する。

《政策目標を達成するために考慮するポイント》

南海トラフ地震への対応

- ・地震津波発生時に、国道56号の代わりとして利用できること
- ・地域の防災拠点施設と連携できること
- ・避難路と連携し、一時的に避難場所として活用できること

速達性・走行性

- ・救急医療機関、市場及び観光地などへの速達性、走行性に優れていること

《道路整備に際し配慮するポイント》

自然環境・生活環境の保全と調和

- ・自然環境保全のため、動植物の生息域への影響等が少なくなるよう配慮する
- ・沿線住民の生活環境保全のため、市街地(集落)を分断しないよう配慮するとともに、地域の重要な施設(主要施設、公園等)を回避

経済性等への配慮

- ・経済性に優れている道路構造(土工(切土、盛土))を基本とするとともに、建設に要する期間を極力短くする

案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案

市街地(集落)の極力近くを通るルートで自動車専用道路を整備する案
(延長 22km 速度 80km/h 2車線)

案② 区間延長を極力短くしたバイパス案

区間延長を極力短くしたルートで自動車専用道路を整備する案
(延長 20km 速度 80km/h 2車線)

案③ 現道改良案

現状の国道56号の急カーブ・急勾配・道路幅等を改良する案
(延長 27km 速度 60km/h 2車線)

○案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案



■ 整備目標

整備概要

延長 約 22 km
 速度 80 km/h
 2車線
 (自動車専用道路)

コスト

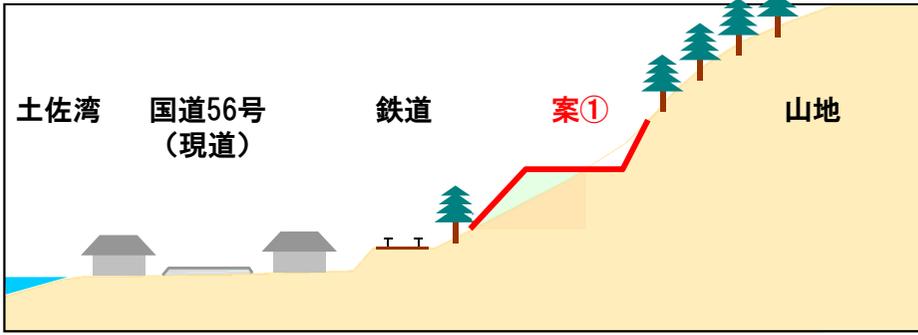
約 950 ~ 1000 億円

■ ルート帯の概要

内容

・市街地(集落)の極力近くを通るルートで、コスト縮減の観点から可能な範囲で土工(切土・盛土)構造を採用し、新たな自動車専用道路を整備する

〈A-A 付近のイメージ〉



※整備目標は、今後の詳細なルート・構造等の検討により変更となる場合があります。

凡例	
—	供用中区間
■■■■	事業中区間
—	一般国道(直轄国道)
—	一般国道(補助国道)
—	主要地方道
—	一般県道
—	土佐くろしお鉄道
◎	市役所・町役場(支所)
■	地すべり危険箇所
■	市街地(集落)
■	公園
■	鳥獣保護区
●	名勝・天然記念物
●	史跡等
●	公共施設
●	病院
●	道の駅や主要な観光地
●	防災拠点施設
⊕	災害対策用ヘリポート
■	津波浸水予測域

○案② 区間延長を極力短くしたバイパス案



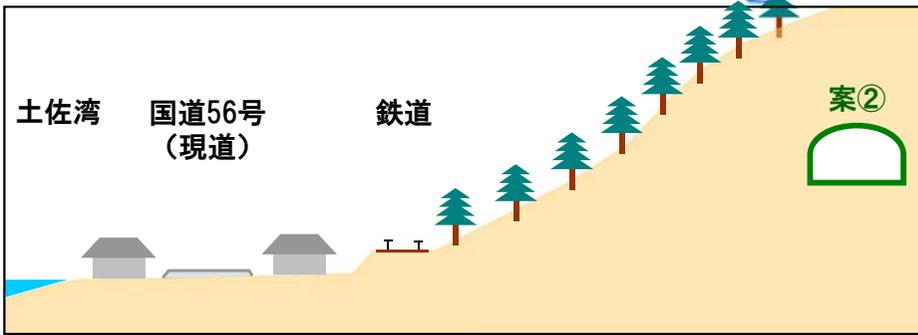
■整備目標

整備概要	延長 約 20 km 速度 80 km/h 2車線 (自動車専用道路)
コスト	約 1050 ~ 1100 億円

■ルート帯の概要

内容	・区間延長を極力短くしたルートで、トンネル構造等を採用し、新たな自動車専用道路を整備する
----	--

〈A-A 付近のイメージ〉



※整備目標は、今後の詳細なルート・構造等の検討により変更となる場合があります。

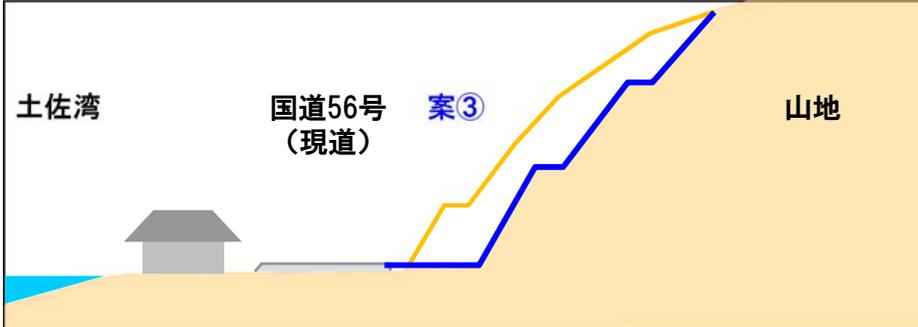
凡例	
—	供用中区間
■	事業中区間
—	一般国道(直轄国道)
—	一般国道(補助国道)
—	主要地方道
—	一般県道
—	土佐くろしお鉄道
⊙	市役所・町役場(支所)
■	地すべり危険箇所
■	市街地(集落)
■	公園
■	鳥獣保護区
●	名勝・天然記念物
●	史跡等
●	公共施設
●	病院
●	道の駅や主要な観光地
●	防災拠点施設
⊕	災害対策用ヘリポート
■	津波浸水予測域

○案③ 現道改良案



災害対策用ヘリポート: 黒潮町・四万十市の地域防災計画で指定されている災害対策用ヘリポート
 防災拠点施設: 高知県の防災拠点および黒潮町・四万十市の地域防災計画で指定されている二次避難施設
 津波浸水予測域: H24.12.10【高知県版第2弾】南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について公表資料を基に作成
 鳥獣保護区: 平成24年度 高知県鳥獣保護区等位置図(高知県)
 名勝・史跡・天然記念物: 黒潮町・四万十市教育委員会資料
 公共施設: 公立学校(小・中・高・養護)、警察署、消防署、図書館、体育館、県・国・市町の事務所

〈B-B 付近のイメージ〉



※整備目標は、今後の詳細なルート・構造等の検討により変更となる場合があります。

■整備目標

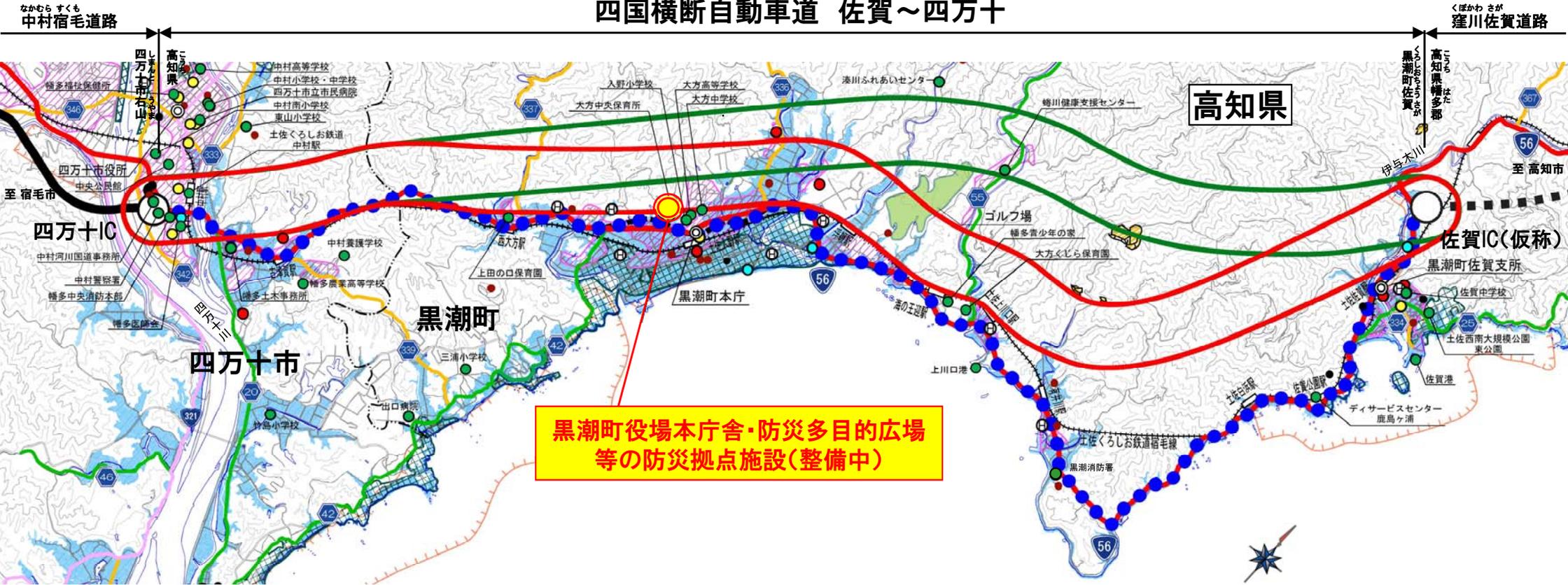
整備概要	延長 約 27 km 速度 60 km/h 2車線 (一般道路)
コスト	約 250 ~ 300 億円

■ルート帯の概要

内容

- ・現状の国道56号の急カーブ・急勾配・道路幅を改良する
- ・急カーブや急勾配区間の局部的な緩和及び道路幅の拡幅を実施する

四国横断自動車道 佐賀～四万十



案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案

案② 区間延長を極力短くしたバイパス案

案③ 現道改良案

凡 例

供用中区間	市役所・町役場(支所)	公共施設
事業中区間	地すべり危険箇所	病院
一般国道(直轄国道)	市街地(集落)	道の駅や主要な観光地
一般国道(補助国道)	公園	災害対策用ヘリポート
主要地方道	鳥獣保護区	防災拠点施設
一般県道	名勝・天然記念物	津波浸水予測域
土佐くろしお鉄道	史跡等	

災害対策用ヘリポート: 黒潮町・四万十市の地域防災計画で指定されている災害対策用ヘリポート
 防災拠点施設: 高知県の防災拠点および黒潮町・四万十市の地域防災計画で指定されている二次避難施設
 津波浸水予測域: H24.12.10「【高知県版第2弾】南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について」
 公表資料を基に作成

鳥獣保護区: 平成24年度 高知県鳥獣保護区等位置図(高知県)

名勝・史跡・天然記念物: 黒潮町・四万十市教育委員会資料

公共施設: 公立学校(小・中・高・養護)、警察署、消防署、図書館、体育館、国・県・市町の事務所

3. 対応方針(素案)の検討(ルート帯案の概要及び比較)

○案①及び案②は、案③に比べ、全ての政策目標の達成が見込めるほか、地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、「国道56号の代わりとして利用できること」という点で優れている。

○案①は、案②に比べ、地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、「災害発生時に、円滑な救命・救助活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」、「津波発生時に、避難路と連携し一時的に避難場所として活用できること」という点で優れている。

ルート帯の概要		案① 市街地(集落)との 連絡性を優先するバイパス案	案② 区間延長を極力 短くしたバイパス案	案③ 現道改良案 (現状の国道56号の急カーブ・ 道路幅等を改良する案)	
整備目標		延長 約22km 80km/hで走行できる 自動車専用道路(2車線)	延長 約20km 80km/hで走行できる 自動車専用道路(2車線)	延長 約27km 60km/hで走行できる 一般道路(2車線)	
効果・改善される点 道路整備による	政策目標 ①	国道56号の代わりとして利用できる		現状の国道56号を改良するため、代わりとはならない	
	地震・津波 発生時	地域の防災拠点施設への円滑な 連絡が確保できるか？	円滑な連絡が確保できる (案②より連絡距離が短い)	連絡が確保できる	津波浸水影響を受けるため、 連絡が確保できない
		避難路と連携し、一時的に避難 場所として活用できるか？	避難場所として活用できる (案②より多く活用できる)	避難場所として活用できる	津波浸水影響を受けるため、 避難場所として活用できない
	政策目標 ②③④ 目的地まで の移動	医療施設までの搬送時間や 患者への負担は？ (急カーブや信号交差点等の影響)	搬送時間の短縮や患者への負担軽減が見込まれる		搬送時間の短縮や患者への 負担軽減は、さほど見込めない
		市場までの輸送時間や商品の 品質確保は？ (急カーブや信号交差点等の影響)	輸送時間の短縮や商品の品質確保が見込まれる		輸送時間の短縮や商品の 品質確保は、さほど見込めない
		観光地への立寄箇所や滞在 時間の増加は？ (広域的な時間短縮等)	時間短縮により、立寄箇所や滞在時間の増加が見込まれる		時間短縮は小さく、立寄箇所 や滞在時間の増加は、 さほど見込めない
による影響 道路整備	自然環境	動物への影響は？	影響の可能性はある	影響の可能性はある	影響の可能性はあるが小さい
		植物への影響は？	影響の可能性はあるが小さい	影響の可能性はあるが小さい	影響の可能性はあるが小さい
	生活 環境等	家屋などへの影響は？	小さい(案②より大きい)	小さい	大きい
		大気質及び騒音等の影響は？	影響の可能性はあるが小さい (案②より大きい)	影響の可能性はあるが小さい	影響の可能性はある
他の その	事業期間	建設に要する期間は？	長い(案②より短い)	長い	短い
	経済性	建設に要する費用は？	約950～1000億円	約1050～1100億円	約250～300億円

※整備目標は、今後の詳細なルート・構造等の検討により変更となる場合があります。

※自然環境及び生活環境への配慮 ⇒ 今後の詳細なルート・構造等の検討段階で詳細な調査を実施し、影響の回避及び低減を図ります。また、整備にあたっては、自然環境及び生活環境に配慮した対策工を実施します。

3. 対応方針(素案)の検討

○地域住民・企業等へのアンケート及び団体等へのヒアリングの結果

【ルート帯案について】

- ・アンケートでは、「災害発生時に、円滑な救命・救助活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」(23%)、「国道56号の代わりとして利用できること」(20%)が最も重要とされている。
- また、「津波の影響を受けない場所(山側・高台)での整備」(100件)、「早くスムーズな移動ができる道路の整備」(69件)が重要との意見も多く寄せられた。
- ・ヒアリングでは、「津波発生時に、避難路と連携し一時的に避難場所として活用できること」(14団体)、「大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動ができること」(13団体)が重要との意見が最も多く寄せられた。

【インターチェンジ位置について】

- ・アンケートでは、「地域の防災拠点施設と円滑に連絡できること」(92%)が最も重要とされている。
- また、「災害(地震・津波等)の影響を受けず機能すること」(32件)が重要との意見が最も多く寄せられた。
- ・ヒアリングでは、「市街地(集落)と連絡できること」(9団体)が重要との意見が最も多く寄せられた。

【その他】

- ・意見聴取全般において、「新たな道路の早期開通」(696件)を求める意見が非常に多く寄せられた。
- ・また、防災や観光の拠点となる「休憩施設の整備」(21団体)や「海が見えるルート」(13団体)を求める意見も多く寄せられた。



○ルート帯案とインターチェンジ位置の考え方

【ルート帯案の考え方】

- ・国道56号の代わりとして、津波の影響を受けず、災害発生時に円滑な救命・救助のため、地域の防災拠点施設と連絡ができ、避難場所としても活用できるとともに、大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動することができる自動車専用道路によるバイパス案とする。

【インターチェンジ位置の考え方】

- ・災害(地震・津波等)の影響を受けず機能し、地域の防災拠点施設や市街地(集落)と円滑に連絡できることに配慮した配置案とする。

【その他】

- ・観光の観点で、海が見えることにも配慮したルートとする。
- ・地域の防災拠点施設との連絡方法、防災や観光の拠点となる休憩施設の整備について、今後、県及び市町と連携して検討を行う。

○窪川佐賀道路と中村宿毛道路を新たに自動車専用道路で結ぶことで、地域の課題である南海トラフ地震による津波発生時に、国道56号の代わりとして地域の分断・孤立を解消し、円滑な救命・救助活動のアクセスを確保、避難場所としても活用できるとともに、地域の救急医療や産業及び観光振興を支援することのできる「案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案」とする。

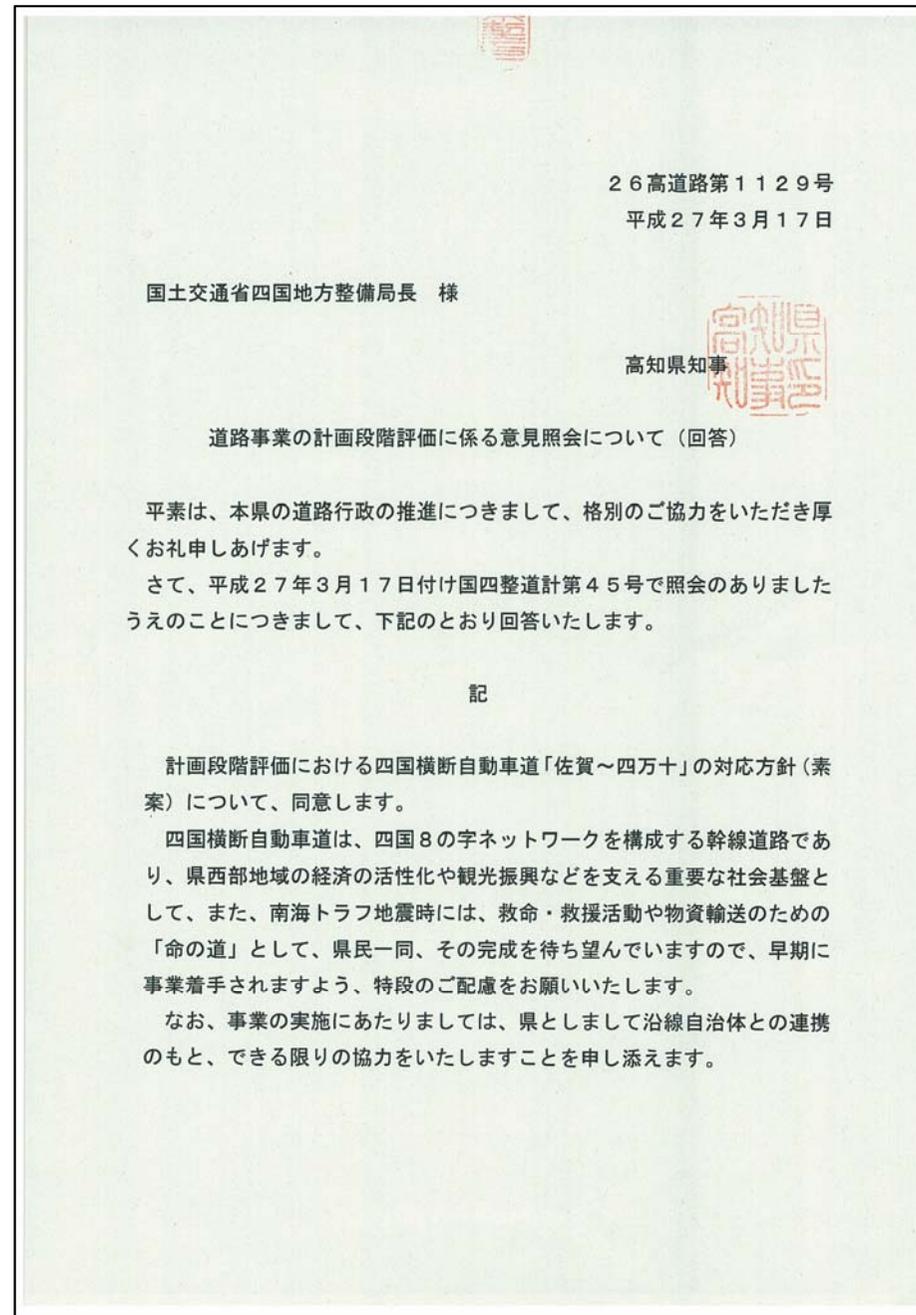


4. 自治体への意見照会結果

■意見照会の回答

自治体名	意見
高知県	<p>○計画段階評価における四国横断自動車道「佐賀～四万十」の対応方針(素案)について、同意します。</p> <p>○四国横断自動車道は、四国8の字ネットワークを構成する幹線道路であり、県西部地域の経済の活性化や観光振興などを支える重要な社会基盤として、また、南海トラフ地震時には、救命・救援活動や物資輸送のための「命の道」として、県民一同、その完成を待ち望んでいますので、早期に事業着手されますよう、特段のご配慮をお願いいたします。</p> <p>○なお、事業の実施にあたりましては、県としまして沿線自治体との連携のもと、できる限りの協力をいたしますことを申し添えます。</p>
四万十市	<p>○四国横断自動車道(佐賀～四万十)における対応方針(素案)については、異存ありません。</p> <p>(1)ルート帯について 『案①』が妥当と考えます。</p> <p>(2)インターチェンジについて 四万十市における2つのインターチェンジの詳細な検討にあたりましては、本市の意見も踏まえていただき、幡多地域の玄関口としての機能を最大限発揮すると共に四万十市のまちづくりと一体となって地域の活性化が図られるものとなるようご配慮をお願いいたします。</p> <p>(3)その他 防災や観光の拠点となる休憩施設の整備については、幡多地域全体の底上げにつながるようご配慮をお願いいたします。</p> <p>○四国横断自動車道(佐賀～四万十)は、幡多地域が活力に満ちた、自律的で持続的な地方を創生していくための大変重要な道路です。また、国土の強靱化にも欠かせない社会資本であり、近い将来確実に襲ってくる南海トラフ地震では、住民の生命を守る重要な役割を担うものであります。</p> <p>つきましては、計画段階評価など必要な手続きをすみやかに終えられ、早期に事業化されますよう特段のご配慮をお願いいたします。</p>
黒潮町	<p>○津波の影響を受けない高台での整備や、国道56号の代わりとして利用でき、防災拠点施設や市街地(集落)と円滑に連絡できるインターチェンジ配置などが考慮された「案①」が妥当と判断いたします。</p> <p>○四国横断自動車道は、交流人口の拡大や地域産業・観光の発展に必要なことはもとより、南海トラフ地震発災時には「命を助け、助かった命をつなぐ」まさに『命の道』となります。特に本町は、日本最大の津波高34.4mが予測されるなか『避難放棄者ゼロ』をめざし、各種の防災対策を進めています。その要である防災計画策定にあたり、「佐賀～四万十」間のルートやインターチェンジは重要になります。</p> <p>○また、須崎西ICより西側には、休憩施設がありません。「佐賀～四万十」間の整備の際には、海の見える場所へ、大規模災害時における後方支援拠点施設の性格を併せ持った休憩施設(道の駅)の整備も提案いたします。</p> <p>○四国8の字ネットワークの早期整備のためにも、「佐賀～四万十」間につきまして早期に事業着手されますよう特段のご配慮をお願いいたします。</p>

■意見照会の回答(高知県知事)



■意見照会の回答(四万十市長・黒潮町長)

26 四ま第 319 号
平成 27 年 3 月 17 日

国土交通省四国地方整備局長 様

四万十市長 中平 正宏 

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答)

平成 27 年 3 月 17 日付け国四整道計第 45 号で照会のありましたことについて、下記のとおり回答いたします。

記

1 回答
四国横断自動車道(佐賀～四万十)における対応方針(素案)については、異存ありません。

(1) ルート帯について
『案①』が妥当と考えます。

(2) インターチェンジについて
四万十市における 2 つのインターチェンジの詳細な検討にあたりましては、本市の意見も踏まえていただき、幡多地域の玄関口としての機能を最大限発揮すると共に四万十市のまちづくりと一体となって地域の活性化が図られるものとなるようご配慮をお願いいたします。

(3) その他
防災や観光の拠点となる休憩施設の整備については、幡多地域全体の底上げにつながるようご配慮をお願いいたします。

2 その他意見
四国横断自動車道(佐賀～四万十)は、幡多地域が活力に満ちた、自律的で持続的な地方を創生していくための大変重要な道路です。また、国土の強靱化にも欠かせない社会資本であり、近い将来確実に襲ってくる南海トラフ地震では、住民の生命を守る重要な役割を担うものであります。
つきましては、計画段階評価など必要な手続きを速やかに終えられ、早期に事業化されますよう特段のご配慮をお願いいたします。

26 黒潮第 9923 号
平成 27 年 3 月 17 日

国土交通省四国地方整備局長 様

高知県幡多郡黒潮町長 大西 勝也 

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答)

平成 27 年 3 月 17 日付け国四整道計第 45 号にて照会のありました、四国横断自動車道(佐賀～四万十)における対応方針(素案)における意見照会について回答いたします。

津波の影響を受けない高台での整備や、国道 56 号の代わりとして利用でき、防災拠点施設や市街地(集落)と円滑に連絡できるインターチェンジ配置などが考慮された「案①」が妥当と判断いたします。

四国横断自動車道は、交流人口の拡大や地域産業・観光の発展に必要なことはもとより、南海トラフ地震発災時には「命を助け、助かった命をつなぐ」まさに『命の道』となります。特に本町は、日本最大の津波高 34.4m が予測されるなか『避難放棄者ゼロ』をめざし、各種の防災対策を進めています。その要である防災計画策定にあたり、「佐賀～四万十」間のルートやインターチェンジは重要になります。

また、須崎西 IC より西側には、休憩施設がありません。「佐賀～四万十」間の整備の際には、海の見える場所へ、大規模災害時における後方支援拠点施設の性格を併せ持った休憩施設(道の駅)の整備も提案いたします。

四国 8 の字ネットワークの早期整備のためにも、「佐賀～四万十」間につきまして早期に事業着手されますよう特段のご配慮をお願いいたします。

5. 対応方針(案)のまとめ

1. 道路整備の必要性

政策目標を実現できる道路整備を検討

【政策目標】

- ①南海トラフ地震に備えた信頼性の高いネットワークの確保
 - ・代替路の確保
 - ・防災拠点施設や避難路との連携
- ②救急医療機関への速達性の向上・安静搬送の実現
- ③速達性・走行性の向上により産業振興を支援
- ④地域間の交流促進により広域的な観光振興を支援

○当該地域は、南海トラフ地震発生時に、全国で最も高い津波高34mが、国道56号の約7割が浸水すると予測
また、国道56号は急カーブ等が多数あり、日常の通行、救急搬送及び農産品等の輸送などに支障

○地震津波発生時に地域の分断・孤立を解消、円滑な救命・救急活動のアクセスを確保、また、地域住民の安全性・利便性の向上及び産業・観光振興を支援するためには、信頼性・速達性・走行性に優れた道路の整備が急務

○意見聴取結果でも、国道56号の代わりとして津波の影響を受けず、円滑な救命・救助活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができ、一時的に避難場所としても活用できるとともに、大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動できる道路が重要という意見が多く、このような政策目標を実現できる道路の早期開通が強く望まれている。

2. 対応方針(案)

(1) ルート帯について

『案① 市街地(集落)との連続性を優先するバイパス案』を対応方針(案)とする。

【理由】

- 案①及び案②は、案③に比べ、全ての政策目標の達成が見込め、地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、「国道56号の代わりとして利用できること」という点で優れている。
- 案①は、案②に比べ、地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、「災害発生時に、円滑な救命・救助活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができるとともに、避難路と連携し一時的に避難場所として活用できる」という点で優れており、日常はもとより、地震・津波などの災害発生時においても信頼性・速達性・走行性に優れた道路ネットワークを形成することができる。
- また、地域への意見聴取結果で、「津波の影響を受けない場所(山側・高台)での整備」、「大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動できること」が重要との意見も多く、案①は、地域のニーズにも応えられる。

(2) インターチェンジ位置について

- 地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、災害(地震・津波等)の影響を受けず機能し、地域の防災拠点施設や市街地(集落)と円滑に連絡できることに配慮した配置案とする。

3. その他

- 詳細なルート・構造の検討にあたって、自然環境や生活環境等への影響、整備期間の短縮及びコスト縮減に配慮するとともに、美しい太平洋の景色を望むことのできる道づくりについて検討を行う。
- 地域の防災拠点施設との連絡方法、防災や観光の拠点となる休憩施設の整備について、今後、県及び市町と連携して検討を行う。

○地域の課題である南海トラフ地震による津波発生時に、国道56号の代わりとして地域の分断・孤立を解消し、円滑な救命・救助活動のアクセスを確保、避難場所としても活用できるとともに、地域の救急医療や産業及び観光振興を支援することのできる自動車専用道路を整備。

